地質標本館だより

「岩石・鉱物・化石の相談日」と「入館者20万人達成」

神戸信和・滝沢朝代（地質標本館）
Nobukazu KAMBE　Asayo TAKIZAWA

1. はじめに

昭和55年8月19日から一般公開を始めた地質標本館は今年で6周年を迎え　その間　昭和57年9月30日の地質調査所100周年記念筑波式典には多くの関係者を　昭和58年6月8日には皇太子殿下　美智子妃殿下　浩宮殿下をお迎えし　昭和60年3月17日から同年9月16日まで行われたEXPO'85—TSUKUBAの機会には諸外国から多くの方々を　さらに開館以来　政界　官界　財界　学界　一般から多くの見学者を迎えて　筑波研究学園都市の目玉として　あるいは学園の顔としてその位置をますます着実に築きつつあると言えます．　工業技術院や地質調査所の顔としては今更言うまでもありません．　6周年を迎えたことについては稿をあらためることとし　本稿では最近のニュースを2題ここに御紹介することにいたします．

2. 「岩石・鉱物・化石の相談日」

地質調査所の研究業務を紹介し　あわせて地球科学を普及することを目的として設立された地質標本館は　一方では閉ざされた学園都市のイメージを開かれた学園へのイメージ・チェンジをはかる役割をも担って　一般公開されていると言っても過言ではありません．

そのような歩みを続けてきて　"フト"気がついたことがありました．　それは日常業務として一般公開し見学者をただ迎えることだけでよいのだろうかということでした．　一般の博物館とは多少性格が違うにしてもひとつは立派な映像室が完備されているから　講演会を開催してはどうだろうかということと　もうひとつは小学生　中学生あるいは高校生の団体見学も比較的多いし夏休みの宿題や自由課題のお手伝いをしてはどうかということでした．

そこで早速計画し実行に移されたのが　後者の夏休みのお手伝いです．　それは丁度　開館3周年の昭和58年8月23日の第6回地質標本館運営委員会で"岩石・鉱物・化石の相談日"を同年8月30日（火）午前10時から午後4時まで標本館ロビーで　館長付や地質標本課員を中心に各研究部員の協力により実施することが決定したのです．

当時の白髭弘次館長付（現在北海道支所庶務課長）は相談日のP・Rのため研究交流センター内の学園記者クラブを通じて新聞・ラジオなど各社　学園内各大学・研究所へ　さらに谷田部町教育委員会　桜村教育委員会などに周知方を徹底させる一方　町村の公民館などへ自らポスター貼りをして下さった．　その結果　8月25日付け読売新聞朝刊は「夏休みのチビッ子に朗報"石の相談"受けます．　学園都市30日に工業技術院で」　同日付け朝日新聞朝刊は「小中学生の採集鉱石無料鑑定いたします．　筑波の通産省地質調査所」という見出しで　さらに茨城ラジオ放送は同日「タイム4"いばらき"小・中学生の地質に関する相談会」と題して報ぜられました．

このようにして8月30日を迎えましたが　当日の相談は21件で　小学生22名　中学生4名　大人13名の計39名に達し　学園内の小学生や中学生が大部分でしたが　水戸市や友部町の生徒さんもいました．　相談者は茨城県内に限られていましたが　相談に持ち込まれた"石"は茨城県内のものが多いものの　遠くは南極東オングル島やカナダ産の片麻岩　足尾山地のマンガン鉱　岐阜県瑞浪産の化石など多岐にわたっており　8月31日付け常陽新聞は「持ち込み岩石分析中には南極産も　工業技術院地質標本館」　9月16日付けサイエンスコミュニケーションは「地質調査所　チビッ子の夏休みお手伝い」という見出しで　その成果を報じました．

第1回の相談日は開催の決定が遅かったにも拘わらず朝から相談に応ずる忙しい一日で　好評のうちに終了することが出来　関係者一同胸をなでおろしたのです．

第2回目は昭和59年8月29日（水）　第3回目は昭和60年8月29日（木）に相談日を実施しましたが　実施に先立って第2回目は当時の正井義郎館長付　第3回目は滝沢管理専門職によりP・Rが展開されました．　P・Rの方法いかんが相談日当日の関係入館者数に及ぼす影響が大きいということに3回目ごろから気が付き始めました．　第2回　第3回とも各新聞社　茨城ラジオ放送に

より相談日実施の予告やら成果が報道されたのは勿論です.

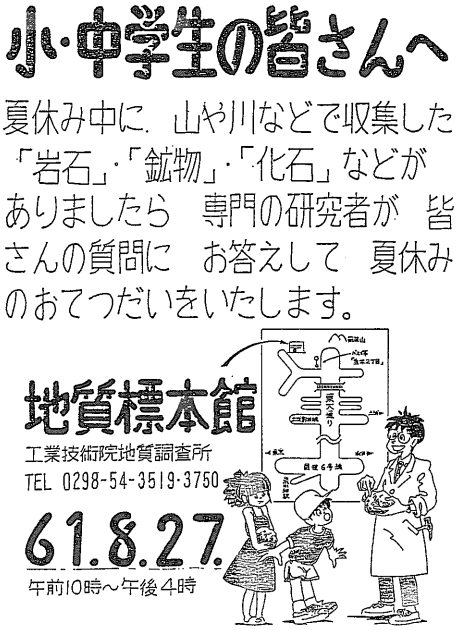
昭和59年の第2回目は受付32件　37名で　そのうち小学生及び中学生が圧倒的に多く29名でした.　昭和60年の第3回目は受付19件　小学生22名　中学生6名　一般1名の計29名に達し　相談に持ち込まれた岩石13件約140個　鉱物・鉱石5件約30個　化石4件約20個で朝から大変な賑わいで成功裡におわることができました.

さて　今年の第4回目の相談日はどのような経過をたどったのでしょうか.　過去3回の経験からP・Rは小学校や中学校が夏休みに入る前から行なうのが　どうやら効果的であるという結論に達し　昭和61年7月7日の第12回地質標本館運営委員会で第4回目の相談日を　同年8月27日（水）に実施することを決定し　直ちに行動を開始したのです.

まず第1図のようなポスターを地質標本館内は勿論地質調査所本館に掲示する一方　学園内各研究所は工業技術院管理事務所　科学技術庁交流センターにお願いしたほか学園都市周辺の土浦市　筑波町　大穂町　豊里町　谷田部町　桜村　牛久市のそれぞれ役場広報係に　及び報道記者クラブを通して各新聞社　ラジオ　テレビ報道機関に対してP・Rをお願いしたのです.　もうひとつの特色はB5版に縮少したポスターを地質標本館受付で見学者や団体入館者にキメ細かく配布したことではないでしょうか.

重要なことは相談日に立合っていたゞく研究者の出席ですが　これについては部長会議を通して依頼する一方直接にもお願いし　岩石　鉱物　化石それぞれの専門研究者を十分に確保したことです.　なお相談日前日には標本館ロビー内に相談用テーブル　椅子などを用意し万全の準備を終了しました.

遂に8月27日（水）の相談日当日の開館を迎えたのですが　予想通り午前10時から“石ころ”の入ったカバン風呂敷包みあるいは大小の紙箱を手に手に持った小学生中学生（なかにはお父さんやお母さんと同伴して）の行列が受付前にできてしまいました.　持参した“石ころ”が岩石　鉱物か化石のいずれかであるかを尋ねて　それぞれの専門研究者のいるテーブルの前に行ってもらいまし



第1図　「岩石・鉱物・化石の相談日」のポスター（スケッチは河村幸男氏による）

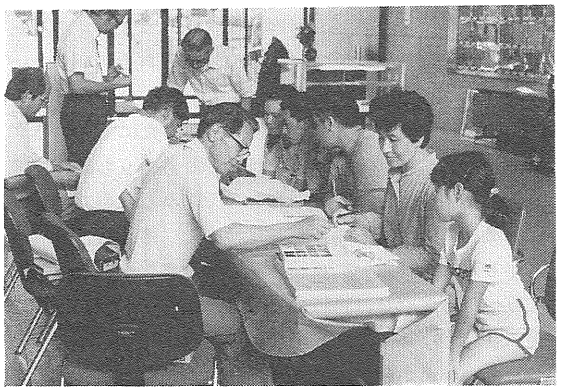


写真1　地質標本館ロビーにおける相談日の状況ひとこま

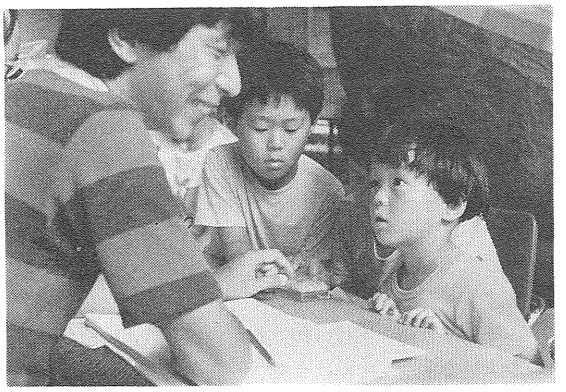


写真2　夏休みに採集した岩石を持ち寄り質問を浴びせる子供たち

た．　袋や箱から出された“石ころ”はテーブルの上に並べられ　研究者はまず石の来歴—採集者　産地　産状など—を聞き　ルーペや顕微鏡による観察　薬品による化学反応検査などを行ない　それぞれの石に名前を　例えば砂岩であるとか花崗岩とか　あるいは二枚貝のイノセラムスとかを詳しく　時にはラベルに標本名などを書いて渡しました．　相談を受けた研究者には“相談書”に相談者の学校名　学年　名前　採集した場所　対応研究員　回答の内容を　なおアンケートには　1.このもようしをどこで知りましたか？　2.こんごも続けてほしいですか？　3.時期はいつごろがいいですか？　4.そのほか希望がありますか？　を記入してもらいました．

このように相談日は続行されましたが　どうやら午前10時30分～12時　午后1時30分～3時の2回にわたって相談時間のピークがあったようです．　勿論　昼休みもなく続けられました．　新聞社などの記者も午前中から詰めかけて　相談者や研究者にいろいろと質問しては熱心な取材が続きました．　結果としてこの日の相談受付は29件　89名（幼稚園生2名　小学生41名　中学生17名　高校生3名　一般26名）に達し　内訳は岩石・鉱物28件約300個　化石5件約20個の多数に達しました．　今回は過去3回の相談日に比べると圧倒的に多くの相談者の入館があり　盛大でした．　相談中の対応研究員と相談者の目と目は　それは和気あいあいのうちにも真剣そのものであったと言えます．　このように成功裡に終了することができたのも　比較的早くから徹底したP・Rを始めたことと大勢の対応研究員に出席していただけたことによるものと感謝している次第です．　今後も毎年継続的に相談日が実施され　ますます成長し発展していくことを願っています．

なお　今回　第4回目の相談日の成功は下記の方々の御協力によるもので　ここに銘記して厚くお礼申し上げます．

坂本亨　尾上亨　豊遙秋　服部仁　角靖夫　奥村公男　牧本博　山元孝広　磯部一洋　坂巻幸雄　浦辺徹郎　青木正博　楠瀬康子　岸本文男　熊田保　大田義浩　山本洋一　地質標本館運営委員会委員及び財日本産業技術振興協会（以上敬称略）

さらに第4回相談日に関する報道記事を別表に列記し取材に尽力された各新聞社　ラジオ　テレビ報道機関の方々　及び学園都市周辺の市町村役場広報担当の方々に厚くお礼申し上げます．

3.　入館者20万人達成

地質標本館の入館者は昭和55年8月19日の開館以来昭和56年3月31日には17,726人　昭和57年3月31日には45,225人　昭和58年3月31日には81,720人　昭和59年3月31日には119,199人　昭和60年3月31日には162,298人昭和61年3月31日には184,815人に達しました．　その間　昭和56年9月4日には山口県牛島小学校教員瀬光明氏が3万人目　昭和57年5月18日には茨城県勝田高校生神和恵さんが5万人目　昭和58年9月3日には日立製作所日立工場の社員グループ110人の1人で　茨城県東海村の熊谷正紀氏が10万人目というそれぞれ幸運の入館者になり　心ばかりの記念品が贈呈されました．

このような経過のなかで　昭和61年3月31日には総入館者数が184,815人に達し　近く20万人目の入館者を迎える日も遠くないという予想がたつようになり　その日には何らかの形でささやかな行事を実施しようと考え

写真3　入館者20万人目で館長から記念品を受けとる茨城県立麻生高校の生徒代表

写真4　入館者20万人達成日記念品を受け取る土浦市立中村小学校の生徒たち

年月日	記事の標題	報道機関
61. 7.30	学園都市研究所ガイド　夏休み自由研究のテーマ—地質標本館	セゾンTV—ACCS 9
61. 7.31	小・中学生のみなさんへ(27日)　お知らせ版カレンダー8月号.	桜村役場
61. 8. 1	工業技術院地質調査所から—小・中学生の皆さんへ　広報つちうら No. 456.	土浦市役所
61. 8. 5	岩石・鉱物なんでも相談所　広報やたべデイリーガイド　No. 88.	谷田部町役場
61. 8. 6	小・中学生のみなさんへ　つくば7月号　No. 238.	筑波町役場
61. 8. 9	夏休み理科の宿題　相談に乗りますよ　学園都市の地質標本館	朝日新聞(茨城)　朝刊
61. 8.10	小・中学生の皆さんへ　広報大穂8月号　No. 167.	大穂町役場
61. 8.10	地質標本館で夏休み相談所　広報やたべ8月号　第324号.	谷田部町役場
61. 8.15	地質標本館から—小・中学生の皆さんへ　広報うしく第455号.	牛久市役所
61. 8.20	学園都市　夏休み研究相談会.	読売新聞(茨城)　朝刊
61. 8.23	地質標本館　地球の歴史ひと目で.	読売新聞(茨城)　朝刊
61. 8.23	地質標本館紹介と8月27日の岩石・鉱物・化石相談日コーナーについて.	茨城ラジオ放送
61. 8.28	小中学生に人気集中—地質標本館で夏休み相談所開設（付写真).	常陽新聞
61. 8.28	岩石や化石の相談会　筑波学園都市（付写真—専門家に石の名を調べてもらう子供たち).	毎日新聞(茨城県南)　朝刊
61. 8.28	研究官が宿題のお手伝い（付写真).	朝日新聞（茨城県南）　朝刊
61. 8.28	ボクらの石調べて　地質標本館が1日鑑定相談（付写真—熱心な子供たちが集まった鑑定相談所).	読賣新聞(茨城)　朝刊
61. 8.29	この石　何の鉱物？　岩石や化石の相談室—小中学生が質問攻め（付写真—採集した岩石を持ち寄り質問を浴びせる子どもたち).	いはらき新聞（土浦県南県西）　朝刊
61. 9.10	未来の学者が大集合　地質標本館で夏休み相談室（付写真—この石はネ　こんなふうにしてできたんだよ—説明を聞く表情は真剣) 広報やたべ9月号　第325号.	谷田部町役場
61. 9.10 ～9.14	学園都市研究所ガイド　夏休み子供科学教室—地質標本館.	セゾンTV—ACCS 9
61. 9.12	研学都市の地質標本館　もうすぐ入館20万人（付写真—間もなく20万人目の入館者を迎える地質標本館は　地元の小学生らの格好の理科教材となっている).	常陽新聞
61.10.14	地質標本館の入館者20万人達成（p. m. 4. 56関東地方ローカル版ニュース)	ＮＨＫ第1放送
61.10.15	地質標本館の入館者20万人達成（p. m. 5. 45ニュースデスク. p. m. 10. 50ファイナルニュース	茨城ラジオ放送
61.10.15	入場者20万人を突破　工業技術院地質標本館—地球の歴史を展示.	いはらき新聞（土浦県南県西）　朝刊
61.10.16	地質標本館の見学20万人.	朝日新聞(茨城)　朝刊
61.10.16	入場者20万人目は麻生高生—地質標本館（付写真—入場者20万人目の記念品を贈られる麻生高生徒代表ら).	毎日新聞（茨城県南）　朝刊
61.10.16	地質館入場20万突破　谷田部（付写真—20万人入場記念品を贈られる麻生高生代表).	読賣新聞(茨城)　朝刊
61.10.17	入館20万人を突破　工技院地質標本館—見学の麻生高—行に記念品（付写真—入館者20万人目で神戸館長から記念品を受け取る県立麻生高の生徒代表).	常陽新聞

て　6月30日には191,901人に達し　7月頃からいよいよその準備にとりかかったのです．　7月31日には193,427人　8月31日には196,613人　9月30日には198,543人を数え　その頃　団体入館予約数と個人入館予想から勘案し　10月の第2週あるいは第3週には20万人に達するということがほぼ確実になり　日を追うて私ども関係者の緊張は高まっていきました　10月11日には199,807人に達し　いよい第3週の14日火曜日には20万人目の入館者を迎えられることがほぼ確実になりました．

10月13日月曜日午前中には用意された記念品に“のし紙”を貼り　午後には科学技術庁交流センター内の報道記者クラブを通して各新聞社　ラジオ　テレビ報道機関に対して取材方を連絡しました。

いよいよ10月14日火曜日午前9時30分の開館を迎えました．　午前9時40分ごろには土浦市立中村小学校6年生177人の入館がありましたが　まだ20万人にはなりません．　そのころから報道関係の記者が詰めかけました．午前10時10分ごろに大型バスが　地質標本館の前庭に植えられている“生きている化石—メタセコイア”の向こうに見え始めました．　茨城県行方郡麻町の県立麻生高校1年生194人の到着です．　麻生高校こそ20万人目入館の団体です．地質標本館玄関前で　午前10時20分館長から代表の羽生貴子さんら生徒4人を通じて麻生高校に20万人達成記念品としてパキスタン産オニックス製花瓶　栃木県塩原層群産植物化石　地質調査所要覧　地質標本館絵葉書を贈呈しました．　これでようやく入館者20万人を達成したのです．

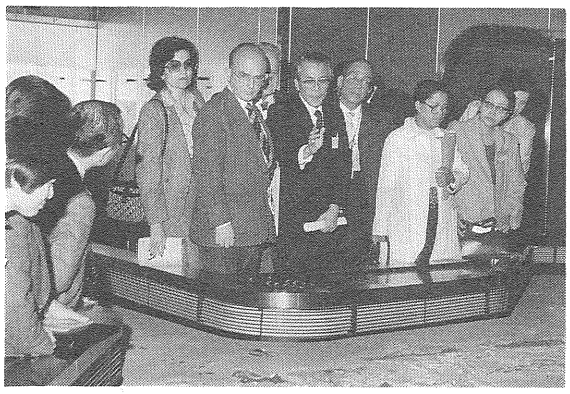


写真 5　国連ESCAP第40回総会参加者一行による地質標本館見学—現垣見所長による説明—（昭和59年4月22日）

麻生高校にちょっと遅れて牛久市婦人会連絡協議会メンバー34名の入館がありました．　前後賞という意味も含めて　土浦市立中村小学校と牛久市婦人会連絡協議会の両団体には　20万人達成日記念品として塩原植物化石地調要覧　絵葉書をそれぞれ贈呈しました　午後にも麻生高校生194人の入館があり　そのほか一般入館者を含めて　10月14日当日の入館者は合計639人で　開館以来の入館者は200,446人に達しました．

地質標本館が開かれた筑波研究学園都市の一般公開施設としての役割を果すことは勿論でありますが　今後30万人　50万人　100万人と入館者が増え続けていくなかで“地球科学の教育普及”の機関としても機能して発展していくことも大変に重要なことであり　大いに期待しているのであります．

なお　ここに入館者20万人達成記念日実施に協力された企画室　業務課　館長付及び地質標本館運営委員会委員の方々に厚く御礼申し上げます．

さらに入館者20万人達成に関する報道記事を別表に列記して　取材に協力された各新聞者　ラジオ報道機関の方々に厚くお礼申し上げます．

写真 6　科学万博時における中国科学技術訪問視察団一行による地質標本館見学（昭和60年5月25日）

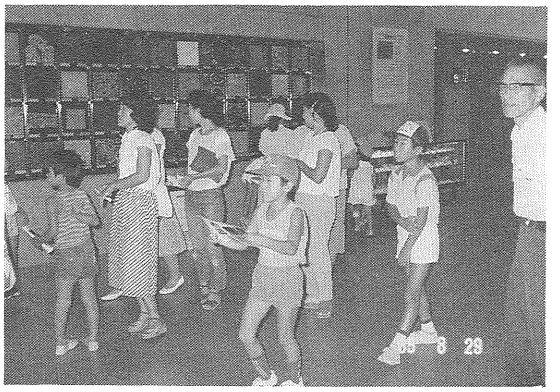


写真 7　第3回岩石・鉱物・化石相談日に来館した小学生たち（昭和60年8月29日）